

対象国の条件: 現職教員研修に係る技プロ実施国(英語圏)のため

研修コース番号: 201984396-J002

案件番号: 201984396

主分野課題: 教育/教育行政

副分野課題:

使用言語: 英語

案件概要

2015年の「持続可能な開発目標」(SDGs)では、ターゲット4.1「男女の区別なく、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育の修了」を設定。JICA教育ポジションペーパーは同ターゲットへの支援として、学びの改善のための総合的なアプローチ(カリキュラム、教科書・学習教材、授業、学力評価の一貫性と学びのサイクルの強化)を重視。途上国では子供の日々の学習達成状況を把握する形成的な評価の蓄積が薄く、形成的な評価から日々の授業改善、学習改善へのフィードバックや教員間の学びあい(現職教員研修)が乏しく、生徒の学習達成が困難であることが喫緊の課題。

目標/成果	対象組織/人材
<p>【案件目標】 生徒の学習達成状況の把握から授業・学習の改善に至る「学校ベースの学習の質改善」とそれに向けた「教育行政の支援」について理解を深め、自国に適応可能な方策を考えることを目的とする。</p> <p>【成果】 単元目標1: 各国における生徒の学習達成状況の把握(形成的な評価を中心に)と対処(現職教員研修含む)に係る現状と課題が整理される。 単元目標2: 日本における生徒の学習達成状況の把握の方法(形成的な評価を中心に)について理解する。 単元目標3: 日本における生徒の学習達成状況の改善に向けた取り組み(学校レベルでの校内研修、各行政レベルからの支援)について理解する。 単元目標4: 本邦研修において学んだことが研修員の関係者間で議論され、その結果が共有される。</p>	<p>【対象組織】 地方教育行政機関及び右機関が管轄する初中等教育機関</p> <p>【対象人材】 1名は地方教育行政機関の担当官、もう1名は学校長(同じ地区)。ただし、2018年の研修において、地方教育行政機関からの参加者に関しては、教育長の参加が望ましい。</p>

内 容	本邦研修期間	2019/10/17~2019/11/9
<p>【本邦研修】 - ワークショップ: 各国の課題の整理 - 講義・討議・視察: (講義)日本の教育制度の概要、現職教員研修の仕組みとそれに係る各行政レベルでの役割、形成的評価等、(視察)教育センターでの現職教員研修、校内研修 - 実習: 最終レポート作成</p>	担当課題部	人間開発部
	所管国内機関	JICA中国
	関係省庁	
	実施年度	2018~2020

主要協力機関	広島大学
特記事項及びホームページ	